

【褒賞登録申請書・概要書】

事業名称	「未来創造」VR 体験で未来を描け～学ぶことは楽しいぞ～
申請部門	・ 対外事業部門

申請 LOM	一般社団法人 岩国青年会議所		
LOM 番号	92	LOM の人数	17
理事長名	平山 一喜		
担当者名	木谷 泰範		
担当者携帯番号 (半角)	090 - 4149-8336	担当者 E-Mail (半角)	Yasu0716uhe@gmail.com

本事業の参加者	会員数	延べ 12 名	会員参加率	80%
	関係者数	5 名	一般参加数	20 名
事業実施に至った背景 200～400 文字程度	<p>近年、急速なデジタル化の進展により、教育の在り方が大きく変化しています。岩国市では「岩国市 GIGA スクール構想」のもと、児童生徒一人一台端末の整備を進め、情報活用能力の育成に取り組んでいます。しかし、単なる端末の導入だけでなく、ICT を効果的に活用し、主体的・対話的で深い学びを実現することが課題となっています。</p> <p>ICT 機器の活用を効果的に行うためには、教員の指導力向上が不可欠です。特に、多様な子どもたちが「誰一人取り残されることのない、公正に個別最適化された学び」の実現が求められています。</p>			
事業の目的 200～400 文字程度	<p>本事業では、VR 技術を活用し、中学生に没入型の学習体験を提供することで、受動的な学びから能動的な学びへの転換を図りました。</p> <p>生徒一人ひとりが主体的に学びながら、没入型の学習体験を実践。さらに、協働学習や学び合いを促進することで、生徒同士が課題解決を行う機会を提供し、学校・教員の新たな役割としての実践的な学びの場を創出しました。</p> <p>ICT の活用を通じて、多様な子どもたちの学習意欲を高め、新たな教育手法を提供することで地域の教育発展に寄与することを目的としています。</p>			
事業の概要 200～400 文字程度	<p>次世代を担う生徒に VR 技術を活用した新たな学習体験を提供し、ICT 教育の可能性を広げることを目的に実施されました。VR 運営会社 ZDN VRcade と学校法人高水学園高水高等学校附属中学校と連携し、中学生を対象に VR を活用した日常英会話学習を実施しました。</p> <p>VR 内での没入型英会話学習を通じて、受動的な学びから 能動的な学習へと転換を促しました。さらに、タブレットを併用し 2 人 1 組で協働学習することで主体性を引き出しました。</p> <p>また、教員が VR 技術を活用した教育手法を体験することで、ICT 機器</p>			

	の効果的な活用方法を模索する機会を提供しました。	
開催時期・ タイムスケジュール	2024 年 10 月 22 日（火）	
	15：10～16:00	1. 理事長挨拶 2. 趣旨説明 3. VR で日常英会話を体験しよう！ 4. 学校法人高水学園 高水高等学校附属中学校 5. まとめ 6. アンケート
開催場所	学校法人高水学園高水高等学校附属中学校	
事業区分 新規・継続	新規	
公益・共益区分		
事業総予算・収支 200～400 文字程度	予算上の工夫と、予算の内訳の概算を記述してください。	
	<p>本事業の総予算は 17,000 円 であり、限られた資金の中で最大限の教育効果を引き出す工夫を行いました。特に、コストを抑えながらも質の高い VR 学習体験を提供するため、VR 機器は ZDN_VRcade の協力を得ることで、機材の準備コストを抑え、無料の VR アプリを活用することで、コンテンツ費も削減しました。</p> <p>予算の概算内訳は以下の通りです。</p> <ul style="list-style-type: none"> VR 機器レンタル費用：円（VR 運営会社） 教材・資料作成費：3,000 円（プリントや説明資料の印刷費） 事前調査・リハーサル費：なし 交通費・通信費：なし（ その他雑費：2,000 円（予備費、消耗品費など） <p>本事業では、学校側の設備を活用 することで会場費を削減し、効率的な運営を実現しました。今後の展開に向けては、VR コンテンツのカスタマイズや体験時間の拡充に向けた追加資金の確保が課題となります。</p>	
協力団体	共催	学校法人高水学園高水高等学校附属中学校 ZDN_VRcade（VR 運営会社）
	協賛	
	後援	
	その他	
事業対象者	学校法人高水学園高水高等学校附属中学校 中学 2 年生	
行動(ACTION TAKEN)	事業の調査、立案、会議の流れ、実施活動について記入	

<p>200～400 文字程度</p>	<p>①事前調査・立案</p> <ul style="list-style-type: none"> 2024 年 4 月～6 月：岩国市の ICT 教育の現状を分析し、VR 教育の導入可能性を検討。 5 月 28 日：大阪で開催された XR 会議「Hub in 大阪」へ現地調査を実施し、VR 教育の最新動向を確認。 6 月 4 日：光市の伊藤公資料館にて VR 教材の活用事例を調査。 <p>②会議・準備</p> <ul style="list-style-type: none"> 8 月 8 日：学校法人高水学園高水高等学校附属中学校の校長と電話相談し、事業の趣旨と実施計画を説明。 9 月 17 日：VR 運営会社 ZDN_VRcade にて VR 操作のトレーニングを実施。 10 月 8 日：事前リハーサルを行い、授業進行の流れや VR 機器の動作確認を実施。 <p>③実施活動（10 月 22 日）</p> <ul style="list-style-type: none"> VR 機器を用いた 日常英会話体験授業を 2 人 1 組に分けて実施。 生徒には VR 内での没入型英会話学習を体験してもらい、主体的な学習を促進。 教員にも VR を体験してもらい、今後の ICT 教育活用の可能性を検討。 <p>④評価・振り返り</p> <ul style="list-style-type: none"> 11 月 7 日：学校へ訪問し、実施後のフィードバックを収集。 12 月 24 日：市教育委員会へ報告書を提出し、VR 教育の継続的な実施に向けた提案を行う。
<p>結果（RESULT）</p> <p>200～400 文字程度</p>	<p>複数の短い文章になるように下記項目毎に簡潔に記載</p> <p>1. 目的がどのくらい達成できたか</p> <p>2. 上記の結果の想定外の結果</p> <p>3. 上記の結果の確認方法</p> <p>4. 検証結果</p> <p>1. 目的がどのくらい達成できたか</p> <p>本事業の目的である「VR を活用した能動的な学びの促進」は 85% の生徒が学習意欲向上を実感するなど、高い成果を上げた。</p> <p>また、教員からも ICT 教育の有効性を認識する声が多く、今後の活用に向けた前向きな意見が得られた。</p> <p>2. 想定外の結果</p> <p>教員から社会科や理科でも VR を活用したいという意見が寄せられ、英語以外の科目にも応用できる可能性が示唆された。</p> <p>3. 結果の確認方法</p> <p>実施後に生徒・教員を対象としたアンケートを実施し、学習意欲や VR 教育の有用性に関する評価を収集した。</p> <p>また、事業終了後に岩国市教育委員会へ報告書を提出。教育長に</p>

	<p>も VR 体験をしていただき意見交換を実施した。</p> <p>4. 検証結果</p> <p>生徒の 85%が学習意欲の向上を実感し、教員の 100%が VR 教育の有効性を認めるという結果が得られた。</p> <p>一方で、VR 機器の台数制限や映像共有の課題が浮かび上がり、次年度以降の改善点として検討が必要となった。</p>
<p>地域社会への影響</p> <p>200～400 文字程度</p>	<p>この事業が与えた地域社会への影響を記入</p> <p>本事業は、VR を活用した教育の可能性を地域社会に示し、最先端技術を活用した新たな学習スタイルの普及 に貢献した。特に、VR による英語学習の実践を通じて、地域の教育現場における ICT 活用の新たな選択肢を提示することができた。</p> <p>また、VR 体験を提供することで、生徒だけでなく教員や地域住民にも最先端技術への関心を喚起し、今後の教育改革や地域のデジタル化推進に向けた議論のきっかけを作った。特に、教員からは他教科への応用を求める声が多く寄せられ、今後の地域教育の発展に向けた可能性が広がった。</p> <p>さらに、本事業を通じて、地域の企業（ZDN_VRcade）と学校が連携し、教育と産業の架け橋を築くことができた。今後もこうした産学連携を活かし、持続可能な ICT 教育の発展に寄与することが期待される。</p>
<p>LOM への影響</p> <p>200～400 文字程度</p>	<p>この事業が LOM に与えた影響を記入</p> <p>本事業は、岩国青年会議所（LOM）の デジタル教育分野における先進的な取り組み を示す事例となり、組織の価値向上につながった。特に、VR を活用した教育事業の実施を通じて、LOM が 地域の ICT 教育推進に積極的に関与している ことを内外に示すことができた。</p> <p>また、本事業の実施により、会員自身が 最新のデジタル技術を学び、実践する機会 を得ることができた。これにより、青年会議所メンバーが ICT 活用の重要性を認識し、自身の事業や地域活動へ応用する意識が高まった。</p> <p>さらに、学校や VR 運営会社との連携を通じて、LOM が 地域の教育機関や企業とのネットワークを強化 する契機となった。これにより、今後の事業展開においても、産学連携を活かした新たな取り組みを生み出す土台が構築された。</p> <p>本事業の成功を受け、LOM 内でも デジタル技術を活用した事業の可能性が広がり、今後の活動方針の一つとして ICT 活用を継続的に推進する意識が醸成された。</p>
事業の長期的な影響	この事業の期待される長期的な影響を記入

200～400 文字程度	<p>本事業を通じて、VR を活用した教育の有効性が認識され、地域の ICT 教育推進の重要なモデルケースとなることが期待される。特に、生徒の学習意欲向上や能動的な学びの促進が確認され、教育現場におけるデジタル技術の活用が今後さらに進む可能性が高まった。</p> <p>また、教員からは VR を英語以外の科目にも応用したいという声が多く寄せられ、社会科や理科など、他の教科でも VR を活用した授業が検討されるきっかけとなった。さらに、学校と企業が連携する形で VR 授業を実施したことにより、地域の教育と産業の協力関係が強化され、持続可能な ICT 教育の発展につながることを期待される。</p> <p>今後は、VR コンテンツの充実や体験時間の拡充、さらに多くの教育機関との連携を図ることで、誰一人取り残さない、公正に個別最適化された学びの実現に貢献していくことが求められる。</p>
<p>考察や推奨</p> <p>200～400 文字程度</p>	<p>検証を踏まえた次の行動を記入</p> <p>本事業の成果を踏まえ、VR を活用した教育のさらなる発展に向けた取り組みを推進する必要がある。生徒の学習意欲向上が確認され、教員からも VR 教育の有効性が評価されたことから、ICT を活用した学びの場の拡充が今後の重要な課題となる。</p> <p>特に、英語以外の教科への応用が期待されており、社会科や理科など幅広い分野で VR 教材を活用することで、より多様な学習機会を提供できる。これに伴い、教員向けの研修やワークショップの開催を通じて、ICT 活用のスキル向上を支援することが求められる。</p> <p>また、本事業の成功を受け、他の学校や教育機関との連携を強化し、VR 教育の継続的な実施を推奨する。</p>
<p>改善点</p> <p>200～400 文字程度</p>	<p>どのような改善点がありますか？</p> <p>本事業の実施により多くの成果が得られた一方で、改善の余地も確認された。まず、VR 体験の時間が短かった という意見があり、学習効果を高めるために体験時間の延長 や VR 機器の追加による同時体験者の増加が求められる。</p> <p>また、VR 内の映像を他の生徒や教員と共有できなかったため、プロジェクターやタブレットを活用し、リアルタイムで映像を共有できる環境の整備が必要である。</p> <p>さらに、教員向けの VR 教育研修を実施し、操作方法や教育活用の理解を深めることで、VR 教育の持続的な導入が可能となる。</p> <p>最後に、VR 教育の対象教科を拡充し、英語だけでなく社会科や理科にも応用できるコンテンツを充実させることで、より多くの生徒が多様な学習体験を得られるようにすることが求められる。</p>
その他	その他のアピールや補足があれば記入

200～400 文字程度	<p>本事業の成果を受け、2025 年 2 月に学校法人高水学園高水高等学校付属中学校の六年制 1 年生を対象に VR 授業を実施しました。</p> <p>これは、VR を活用した教育の有効性が認められ、継続的な導入への第一歩となる。</p> <p>また、KRY 放送およびケーブルテレビ アイ・キャンが取材に訪れ、VR 教育の可能性が地域メディアを通じて広く発信された。</p> <p>さらに、KRY 放送の放送を見た学校法人山口県桜ヶ丘学園 晃英館中学校から VR 授業の依頼を受け、VR 教育が他校にも波及する具体的な動きが生まれた。</p>
当日のストーリー写真 (PDF)	別添
メディア掲載写真 (PDF)	
その他参考資料 (PDF)	
著作権及び肖像権	権利侵害が無い事を確認したらチェックをしてください。 <input checked="" type="checkbox"/>